

準グランプリ



昨日よりも好きになる庭

有限会社新光園 野瀬陽様

「毎朝起きたら、2階の窓から庭を見下ろすようになりました。で、1階に下りて庭を見る。で、見るだけじゃなくて庭に出る。時間があれば庭に出る。時間がなくても一瞬でもいいから庭に出る。そうやってしょっちゅう庭に出るようになりました。デッキにタープをキレイに張れると最高にテンションが上がります。そこで、家族と食事…。家族が喜んでくれると幸せです。もっともっとデッキを秘密基地化して休日を楽しめるべく日々妄想中です。」

完成して半年後、S様よりいただいたメールです。S様の「家族で過ごせる庭が欲しい」、そんな想いがカタチになりました。そして、庭での暮らし方がさらにご家族の日常を彩り豊かにしています。

既存の庭は動線がないためまとまりがなく、家庭菜園を楽しむはずの庭は奥様が雑草取りに追われる場所になっていました。

S様が弊社に訪れたのは「雑草を何とかしたかった」から、そして「自然の中で家族と楽しい時間を過ごせる場所」が欲しかったからです。S様のご要望を受けて、山野にいるような空間で、家族の笑顔が集まる、思い出を紡ぐ庭を設計しようと思いました。

①山野にいるような自然との一体感の中で野菜やハーブを育て、食を楽しむ、家族の時間を過ごす、「庭+庭での住まい方」が楽しめるような基盤づくり。

②玄関やリビングからの動線をつくり日常生活の利便性を高めること。

③土壌改良や暗渠排水を行い植物が育ちやすい環境を整え、植物は土地に合った宿根草を中心とすること。

④野菜やハーブを育て料理に活用できるキッチンガーデンの基盤づくり。

⑤既存の木製フェンスの風合いを損ない、自然素材を用いた経年変化を楽しめる温もりのある庭にすること。

完成した庭には、地面から15センチほどの高さのハードウッドのデッキを新設、庭での生活の基地的な役割を果たしています。デッキに腰を下ろすと地面に座っているかのような心地よさやワクワク感が楽しめ、自然との一体感を感じることが出来ます。

道路からの目隠しがなかった庭は、閉塞的にならないようなるべく囲わず、既存の高木のコナラを活かし、新たにアオダモやイロハモミジ等の雑木を加え、通りからの視線をデッキ上方の風に揺れる落葉樹の方に誘導、目隠しを兼ねた背もたれで、デッキは木々に見え隠れする位の自然な景色になりました。

玄関ポーチからデッキ沿いを走る枕木と石敷のアプローチはキッチンガーデンへと続き庭全体の動線となっており、雑木とアプローチの間は高性の宿根草の咲くロックガーデンとなっており、風にゆれる草花が柔らかさを醸し出します。

デッキに座ると目に入るフェンスの足元はホスタやコバノズイナ、ベニシダ、苔

などのシールドガーデン、庭の奥にはハーブ類と野菜を育てるキッチンガーデンと、それぞれのゾーンで楽しめるようにしました。

今まで庭の手入れは奥様に任せっきりだったご主人が、庭に出ると無心になってストレス発散になると、天気の良い日はタープを張り、バーベキューやタコスパーティーと家族を楽しませてくれます。奥様はワイルドストロベリーやジュンペリーの実の収穫をお子様達と競争したり、スナップエンドウを収穫した後は枝豆を植えるなど、キッチンガーデンも日毎に充実、食に彩りを添えています。

夜はデッキに寝転がり月見をするなど、楽しみ方がどんどん増え、庭を造る前に想像していたよりもっと「庭」を楽しんでいらつしゃいます。

庭という一番身近な自然が、日常を豊かに彩り、ご家族の笑顔が一番集まる場所になりました。

先日、S様より「去年までと比較にならないくらい庭が好きです。」とメッセージをいただき、庭に住まい方が加わることでこんなにも素敵な時間を家族で共有でき愛着を感じる場所になるのだと実感しました。

講評



顧問 藤岡 成介

これまでの眺めるだけの庭から、庭の中に入り家族と楽しく過ごせる空間にリニューアルした設計とデザインが素晴らしいですね。まさしく暮らしのガーデンセラピーの事例です。日本家屋の「縁側」での役割が、デッキをうまく活用することにより家族にとって大切な空間になっています。生活様式が洋風化している中で、デッキにテーブルとチェアではなくラグを敷いて靴を脱いで座れるのがまさしく日本の癒やし空間です。

また、台所と直結したキッチンガーデンでは、プランターを地面に埋め込み周りをチップで敷き詰めることにより、野菜の育成のためにも非常に良いアイデアです。畑とは異なり、靴の泥汚れも防げます。風致式の植栽も自然観を高め、季節の移り変わりを感じ、緑の光、そよ風を心地よく体感できるように工夫されています。

ガーデンセラピーの要素が暮らしの中でふんだんに取り込まれています。ぜひ、参考にしていきたい庭ですね。



作品ムービー

